

保育士養成課程におけるオンライン・アウトプット
型学習の実践
ーコロナ禍の「おうちでぶんぶんひろば」の事例ー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 明美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32125/00000076

保育士養成課程におけるオンライン・アウトプット型学習の実践 —コロナ禍の「おうちでぶんぶんひろば」の事例—

藤本 明美

抄録：

本学は、市内唯一の保育士養成課程を有する大学として、地域と連携した子育て支援活動「ぶんぶんひろば」を開催している。2020年度は新型コロナウイルス感染予防のために実施を見送ることとなった。1年生の時にぶんぶんひろばの運営を経験した2年生は、オンラインで「コロナ禍における子育て家庭」を対象者としたアウトプット型学習に取り組んだ。学習の内容は、親子が「おうちでぶんぶんひろば」として自宅で楽しめるような遊びなどを記載したリーフレット作成、および動画作成である。その結果、保育技術の獲得への意識向上、保護者への子育て支援の理解と技術の向上、社会貢献への意識の変容をとらえることができた。今後、このような有事において学生の自宅学習が続いた時にも行える保育力、専門性の向上を図る教育の方法の足場として調査結果を整理し、今後の教育に役立たせたい。

キーワード：子育て支援 アウトプット型学習 コロナ禍 保育実践力 社会貢献

1. はじめに

2003年の児童福祉法の改正より、保育士の業務は「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行う」（児童福祉法第18条第4項）ことと規定された。さらに2017年告示の改正を受けて「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、地域の子育て支援についての資質や専門性の向上がさらに求められた。

また、2003年に全国保育士会が、保育所並びに保育士の決意表明といえる「全国保育士会倫理綱領」を採択している。倫理綱領は前文と8か条からなるが、その前文は、次のように掲げている。

- ・私たちは、子どもの育ちを支えます。
- ・私たちは、保護者の子育てを支えます。
- ・私たちは、子どもと子育てにやさしい社会をつくりまします。

学生が保育者の仕事として「子どもの保育」と「保護者の子育て支援」を通して、「子どもと子育てにやさしい社会をつくりだす」という、崇高な社会貢献に寄与することを学ぶことの重要性が確認できる。

本学では、2013年度より地域の乳幼児と保護者を対象に「ぶんぶんひろば」を実施している。この取り組みは地域の子育て支援に貢献できることに加え、子ども学科の学生が子どもたちとの交流や保護者からの話を聞くことを通して保育の実践力を養うサービスマーケティングの機会として学習成果をあげている。大学敷地内に授乳室や幼児用トイレなどを完備した実習施設「翠湖館」（あすなろホール）を2016年度に設置し、地域の乳幼児とその保護者対象に年間7回開催してきた。2019年度の参加総数は保護者222名、乳幼児289名であった。前半の4回は2年生、後半の3回は1年生がそれぞれ10人程度からなるグループを編成して主担当となり、遊びの企画から準備、実施、振り返りまでを一貫しておこない

教育的効果を検証してきた（八田他 2014、伊藤 2018、橘 2019）。

2020年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため4月8日から5月6日に緊急事態宣言が政府より発令され、本学が立地する滋賀県の県立学校においては5月31日まで休業延長措置が取られた。学生は自宅待機となり、例年のようにぶんぶんひろばを開催できる状況ではなくなった。その後も状況を伺いながら開催を見送り、結果的には年間通して全面的に中止することとなった。

国立成育医療研究センターが2020年4月末から5月のステイホーム期間に子育て家庭を対象に調査行った調査から、未就園児の保護者が求めている子育て支援のニーズを見てみる。第1回調査（2020年6月22日）の報告（国立成育医療研究センター第1回、2020）では、「子どもの支援について今知りたいことや必要なものは何か？」（複数回答可）に対して、最も多かったのが「子どもが家でできる遊びや運動について」であり、7割の保護者が望んでいた。また、「2020年1月と比べて運動量が減った」と回答した割合は53%、「2020年1月と比べて、テレビやスマホ、ゲームなどをしている時間が今の方が長い」と回答した割合は62%だった。いずれも、子どもと過ごす生活スタイルが変容することで、保護者の戸惑いと子どもの健全育成に影響があることが伺える。また、「2020年1月と比べて、子どもに対して感情的に怒鳴ったり、罵ったり、たたいた頻度が増えた」と回答したのは26%の保護者であった。その2か月後の6月中旬から7月下旬に行われた第2回調査（2020年8月18日）の報告では、同項目で33%が増えたと回答（回答者は異なる）しており、子どもと保護者が置かれている状況が日に日に厳しくなっている状況が伺えた（国立成育医療研究センター第2回、2020）。さらに、「保護者自身が今知りたいことや必要なものは何か？」（複数回答）に対しては「不安や苛立ちへの対処法、リラックス方法についての情報」を51%の保護者が求めていた（国立成育医療研究センター第1回、2020）。

学生たちは、子育て家庭がこのようなニーズを抱えている状況をニュースなどの情報を手掛かりに収集し、その思いに寄り添った。子どもたちの最善の利益を守るために、子どもも保護者も楽しめる過ごし方の情報発信ツールとして、紙媒体であるリーフレットと動画で「おうちでぶんぶんひろば」を作成した。このアウトプット型学習のアクティブ・ラーニングにより、学生が保育と保護者の子育て支援と社会貢献の意義を見出す経験をすることができ、保育者としての資質向上につながる学習プログラムであることが確認できた。

なお、本論文は、ぶんぶんひろばワーキンググループの実践をもとに分析したものである。

2. 研究の目的

本稿は、オンラインで「コロナ禍における子育て家庭」という支援対象者を明確に意識したアウトプット型学習の取り組みの分析を試みたものである。

今後、このような有事において学生の自宅学習が続いた時にも、保育者養成校として保育技術の獲得への意識向上、保護者への子育て支援の理解と技術の向上、社会貢献への意識の変容を促す学習のあり方と、その教育的意義について検証することを目的とする。

3. 研究の方法

3.1 アウトプット型学習の内容 —令和2年度おうちでぶんぶんひろばの概要—

遠隔で進める課題探求型・課題解決型のアクティブ・ラーニングとして新型コロナウイルス感染予防の緊急事態宣言において、自宅待機を余儀なくされた子育て家庭に向けた学習を課した。紙媒体物であるリーフレットの作成と動画の作成の2つの学習課題を進めるにあたり、アウトプット型学習の質を高めるために学習プロセスを検討した。1年生後期においてぶんぶんひろばの運営及び親子の交流を1度経験しているが、授業においては「家庭支援論」「子育て支援」「相談援助」などを履修していない2年生の4月という時期をふまえ、以下のように学習プロセスを設計した。

- ①教員は、家庭内の子どもの様子や保護者の気持ちを学生が想像できるように足場かけをする。
- ②教員は、学生が取り組む課題学習の対象者である子育て家庭に、作成した成果物を増刷して配布することを事前に伝え、「他者の視点強化」を行う。
- ③学生は子育て家庭のニーズに気づき、寄り添う姿勢をもって課題学習に取り組む。
- ④学生は家庭内で課題を解消できるきっかけづくりやヒントとなるような内容を考える。
- ⑤教員は、学生にリーフレットや動画を作成させるにあたり、情報のまとめ方を具体的に伝え、事前に予測できる注意事項も提示する。
- ⑥学生は、保護者がチャレンジしてみたいと思えるようなビジュアルになるよう構成を考え、リーフレットや動画を作成する。
- ⑦学生は、学習課題の取り組みを省察して振り返りシートに詳述する。
- ⑧教員は、学生がお互いの成果物を共有できる場を設け、より質の高い支援を目指すことができるよう促す。
- ⑨提出されたリーフレットの中で、ワーキンググループの教員が選考したリーフレットを長浜市の地域子育て支援拠点4カ所に保護者対象に配架する。

以上の学習プロセス①から⑨まで進むことができるように、学生にはオンラインでプリント（付録参照）を配信し、表1に示すSTEP1からSTEP3までを個別学習で行うように促した。

[表1] アウトプット型学習の課題（付録参照）

STEP1：コロナウィルスの影響で自宅にこもらざるを得ない環境の乳幼児の子育て家庭の状況を考える。
 STEP2：その子育て家庭（親子）に、どのような情報を伝えたら楽しく子育てができるようになるのかを考え、リーフレット及び動画を作成。例を参考に具体的な遊びなどを紹介する。
 STEP3：STEP1・2で考えたことを振り返りシートに記入する。

3.2 アウトプット型学習の実施方法

本学子ども学科2年生保育士養成コース・小学校教諭養成コース33人が、緊急事態宣言における自宅学習期間にオンラインで取り組んだ。リーフレット作成は、2020年4月24日～5月11日、動画作成は5月19日～31日を取り組み期間とした。学内で使用しているGoogle Classroomにて配信、提出とした。調査対象である振り返りシートは、それぞれの提出期限に合わせて作成を課した。

3.3 振り返りシートの項目

表1の「アウトプット型学習の課題」のSTEP3にあたるリーフレット及びその振り返りシート33人分及び、動画の振り返りシート27人分を分析対象とした。昨年度のぶんぶんひろばに参加した保護者と学生からのアンケート結果も比較の対象とした。

振り返りシートの文章量は指定せず、下記の内容で省察を促した。

- ①新型コロナウイルスの影響で自宅にこもらざるを得ない環境の乳幼児の子育て家庭がどのような状況でどのように困っていると考えたか。
- ②子育て家庭（親子）に、どのような情報を伝えたら楽しく子育てができるようになるのかを考え、リーフレット及び動画のテーマを設定したのか。
- ③リーフレット及び動画を作成するにあたり、工夫や配慮をしたことや、今後活かしたいことは何か。

3. 4 振り返りシートの分析の視点と方法

(1) 保育技術の獲得への意識向上

保育の技術の獲得を確認するための視点として「学生は動画を通して自分の話し方の特性や態度に気づき、どう評価したか」を振り返りシートより抽出する。学生が自身で撮影した動画を確認し、自分の話し方や表情、わかりやすい言葉で説明ができていかなどをどのように振り返っていたのか、グラウンデットセオリーの方法論を参照し、振り返りシートに記載されている言語を抽出し、自己評価の視点を探る。さらに、どのように保育の技術獲得に向けて意識が向上したかを記載内容から抽出し傾向を分析する。

(2) 保護者への子育て支援の理解と技術の向上

保護者への子育て支援の理解について確認するために、「学生は子育て家庭のニーズに気づき、寄り添う姿勢をもつことができたか」「学生は家庭内で親子が課題を解消できるきっかけやヒントとなるような内容を考えることができたか」の2つの視点について振り返りシートより記述を抜粋する。

さらに、保護者への子育て支援の技術の向上を確認するために、「学生が保護者にわかりやすく伝える表現」について省察している記述を抜粋して、保護者へ情報提供する技術の向上につながったかを確認する。

以上の視点から学習成果を測り、教育的意義を見出す。

(3) 社会貢献の意識の変容

社会全体で抱えている課題や地域の子育て家庭の困りごとに対して、自分たちにできることを意識化できたと思われる視点で省察している内容を抜粋し、意識の変容を明らかにした。

以上3つの項目について4. に記載し結果を考察する。

4. 結果と考察 — 『おうちでぶんぶん』取り組みの振り返りシートに見られた学生の学びと気づき—

4. 1 保育の技術獲得への意識向上

ここでは、動画作成を通じた自分の話し方の特性や態度の省察を確認していく。

スマホやビデオカメラで手軽に動画を撮影できる時代であり、それを編集するためのソフトやアプリも簡単に入手することが可能となっている。操作を得意とする学生は文字やBGMや背景などを工夫し、効果的な編集を行っていたが、音声小さい、文字が反転しているなどの初心者ならではのミスもみられた。しかし、全般的に紙面では伝えることができない音声や視覚的な映像の強みを生かして作成に取り組もうとする積極的な態度が見受けられた。内容は、工作や料理の方法、歌遊びやダンス、手洗いの方法、絵本の読み聞かせなど多様なものがあった。

「保育の技術獲得への意識向上」につながったかを確認するための視点として、「学生は動画を通して、自分の話し方の特性や態度に気づき、どう省察したか」が読み取れる言葉を振り返りシートより抽出した。

「見ている親子（相手）のことを考えて」という意味に類似する言葉を使用していたのは全体の60%だった。目の前にはいない親子のことを考えて楽しく、わかりやすく、見やすく、伝えることを意識しながら取り組むことができたのは、対象者を意識したアウトプット型学習ならではの振り返りだと言える。また、「見ている親子（相手）のことを考えて」という言葉を使用していないが、全員の学生が動画の作成を通して「相手にどのように伝わっているのか」「見やすいか」については振り返りを行い、省察していた。抽出した114の類出後のカテゴリーに分けると「話し方」「表情」の2つとなった（表2）。

撮影後に動画を見返すことで、今まで自分で気づくことなく無意識に行っていた話し方や表情などの課題や、よくできている点も自覚できる機会となった。いずれも基本的な記述ではあるが、反省点としてあがっていた振り返りを表3にまとめた。

昨年度に取り組んだぶんぶんひろばでのルーブリック評価（2019 橘）では、グループ活動で他者とのかかわりの中で

生まれる自己評価にフォーカスしていた。今回は、個人作業であったためにグループでのチームワークなどの視点を持つことはできなかったが、保育の技術獲得への意識向上という意味では、表4にもあがっているように、実習や就職してからの保育者としての自分のあるべき姿へと学びがつながっており、保育の技術向上の意識を高めるための教育的な意義を見出すことができた。

[表2] 動画作成後の振り返りシートに記述された頻出語

カテゴリー (頻度)	語	頻度	カテゴリー (頻度)	語	頻度
話し方 (80)	わかりやすい説明	22	表情 (34)	笑顔	14
	声の大きさ	10		真顔・硬い・無表情・怖い	7
	聞き取りやすい話し方	8		目線・下を向いている	8
	伝わるように	8		恥ずかしがっている	3
	はきはきした声	6		緊張	2
	ゆっくり	4			
	スピード	4			
	言葉遣い	4			
	丁寧	3			
	スムーズ	3			
	口の動き	2			
	感情を込める	2			
	落ち着いて	2			
	元気いっぱい	1			
	活舌	1			

[表3] 動画を見て発見した自分の課題

- ・はきはきした声で読まない子どもに伝わらないと思った。
- ・明るい表情ができていると思っていたのに、真顔でびっくりした。
- ・もっと口を大きく動かしてはきはきと話すことを意識したい。
- ・絵本をめくるとき自分の腕で絵が隠れてしまう場面があった。
- ・鏡の前で練習してみようと思った。自信をもって絵本を読めるように練習の量を増やしたい。
- ・言葉遣いが悪いところが少しあった。
- ・わかりにくい言い回し、抽象的な説明が多く、これでは子どもたちに伝わらないと思った。もっと丁寧に話すことを意識しないとだめだと思った。

[表4] 動画作成を通して今後活かしたいこと

- ・一人で計画、実施、評価、改善（撮り直し）とマネジメントできる経験ができ、よりよい保育につながっていくことが実感できた。この学びを実習でも生かし保育技術向上に活かしたい。
- ・自分の話し方や表情などを見ることで、実習や面接にも活かせる改善点や大切なことに気づくことができた。日常生活でも鏡をみるなどして意識して改善したい。
- ・いい笑顔だった。今後の実習でも笑顔で子どもと向き合えるように頑張ろうと思った。
- ・伝えたい内容や、必要なものをそろえておくなど準備の大切さに気付いた。実習にも活かしたい。
- ・家にこもりがちでつらい思いをしている親子が、学生の元気な姿をみて、一緒に楽しんでくれたらいいなと思った。就職してからも、登園できない子どもたちや地域の子どもたちに元気を届けていきたいと思った。何回も撮りなおして大変だったが、これからも使える経験ができてよかった。

4. 2 保護者への子育て支援の理解と技術の獲得

(1) 保護者への子育て支援の理解

まずは、保護者への子育て支援の理解をどのようにしているのかを確認するために、学生が子育て家庭のニーズに気づき、寄り添う姿勢、そして、親子が家庭で課題を解消できるきっかけやヒントとなるような内容を提案することができたかなどの視点で振り返りシートの記述を抜粋する。

学生はコロナ禍の子育て家庭の様子をニュースなどで情報を得たり、自分たち自身も自粛という不自由な生活環境で過ごしたりしているため、親子が置かれている様子を想像しやすい状況であった。保護者の不安や負担感やストレスの増加、子どもの生活習慣の乱れ、運動不足、遊び場・遊び仲間・遊びの内容など十分満足できる環境ではないことも想像しながら、寄り添う姿勢をもっていることが伺えた記述の一部を表5に抜粋した。学生はそれらの困り感を、家庭内で少しでも解消できるように、家にあるものだけで簡単に作れるおもちゃの情報、運動不足を解消するためのふれあい遊び、砂遊びの代わりになる感触遊びの提案など様々な思考をしている(表6)。

全体的な傾向としては、保護者と子どもが共に楽しむことができ、それぞれのニーズを満たしながら親子の絆を深めたり、コミュニケーションを楽しんだり、子どもの発達を促進できる、ということを根底において考えていた。保育者は子どもの最善の利益を考えて行動することが求められている。子どもの最善の利益を保障するためにはその保護者のニーズも満たさなければならない。まさに、学生は子どもと保護者のニーズに気づき、寄り添いながら、親子の最善の利益の保障のために遊びの情報提供を考えているといえるのではないだろうか。

表5・6の子育て家庭へ寄り添う気持ちをもちながら、コロナ禍の親子がおうちで楽しく過ごすための遊び情報のリーフレット「おうちでぶんぶん」をA4用紙にまとめた。このリーフレットでは、ただ遊びを紹介するだけでなく、遊びを通して親子でコミュニケーションをとる時間を作ってほしい、楽しい時間を過ごしてほしい、親子の絆を作ってほしいなどの願いを88%の学生が表現していた。また、遊びを通して子どもの発達を促す視点を示し、保護者の関心を引き出そうとしていた学生が15%、生活リズムや生活習慣が乱れることなく楽しみながら過ごすことができるようなサポートとなるメッセージを12%の学生が書いていた。カテゴリーの重複があるため複数回数えている(表7)。

[表5] 子育て家庭のニーズに気づき、寄り添う姿勢に関する振り返りシートの記述内容

- ・私が特に意識したのは、相手の気持ちになるということです。自分が今の社会状況で子育てをしていたらどんなことに困り、どんな情報が欲しいだろうと考え、色々な子育て家庭の声をネットなどで調べたりもしました。「室内で過ごす時間が増え子どもが退屈している」という声をニュースで見て今回の課題のヒントとしました。課題学習に取り組みながら、ニーズに沿った遊びなどの情報を考えて届けることが大切だと気づきました。
- ・現在、コロナの影響で外出する機会が減少しています。ニュースを見ると、公園の遊具が使用禁止になり、公園そのものが立ち入り禁止の場所もあるようです。こんな状況のなか、家にいる時間が増え、のびのびと体を動かすことができず、子どもの運動不足や外遊びを通した親子のコミュニケーションが減少しているのではないかと考えました。
- ・家族が家で自粛をしないといけないという中で、子どもと一緒にいる時間が普段より増え、嬉しい反面、子育ての負担も増えているのが現状にあります。その中で親子が楽しめ、心身ともに少しでも楽になるものはないかと考えました。そして、保護者がかまってあげられない時には、子どもが一人でも楽しめるものが良いと考えました。子どもとの1日の生活の中で、子どもも楽しく、そして保護者の負担やストレスを軽減できればと思います。
- ・実際に小さい子どもがいる人が「最近なかなか寝てくれない」と話しているのを聞いた。他の親子も生活リズムが崩れてメリハリがなくて困っていると思う。ずっと家にいることで運動不足で体も疲れていないために、子ども達が寝付けなくなり、寝るのが遅くなっていることに困っているのではないかと考えた。

[表6] 子育て家庭の困りを解消するために考えた記述内容

<ul style="list-style-type: none"> ・遊んでほしくてぐずっている子どもの対応に困っている保護者が、家にあるものだけで簡単に作れるアイデアおもちゃの情報を選びました。子ども自身が楽しんでおもちゃ製作に取り組むことができれば困った状況を少しでも緩和してくれると考えました。 ・運動不足を解消するためにふれあい遊びを提案します。ふれあい遊びには、親子のコミュニケーションを高める効果や、健康促進、寝つきやすくなる、など様々な効果があります。 ・保護者も運動不足やストレスがたまるが、一人で運動するよりは親子でするほうが楽しく、絆も深まり子育てが楽しくなりストレス発散になると思う。親子共同の遊びで身体を動かすことが楽しいと気づくような遊びを考えた。 ・公園で子ども達が好きな砂遊びができなくなっているのを、感触遊びを選んだ。感触遊びは子どもの想像力や思考力、集中力などの基礎を身につけることができる。年齢に関係なく家庭にある安全な材料だけで実践することができるので手軽に楽しめる。 ・魚釣りを紹介したが、一つの遊びに飽きたらお家にブルーシートを敷くだけでも海の雰囲気を楽しめるし、魚を使ってお店屋さんごっこもできるなど、違う遊びをどんどん工夫して楽しめることを伝えたいと思いました。
--

[表7] 遊びを通して育んでほしいと願っている学生の思い

カテゴリー	内容	数 (割合 / 33)
親子のコミュニケーションの促進	共同あそび、親子でまねっこ、親子で競争的なゲーム (ボーリングなど)、親子で歌う、親子で体を動かす など	29 (88%)
発達を促す	五感・手先・集中力・伝える力・好奇心などの促進	5 (15%)
生活リズム・習慣づくり	お風呂であそべるおもちゃ・就寝のための絵本・手洗いの手遊び	4 (12%)

次に「おうちでぶんぶん」のリーフレットで紹介されていた遊びを5つのカテゴリーに分類した。「手作りおもちゃ」を作ったさらに「体を動かす遊び」に発展したり、「音楽遊び」へと発展したりする遊びが含まれていた。カテゴリーが重複しているものについては、複数回数えて掲載をしている (表8)。

[表8] 「おうちでぶんぶん」で紹介した遊び

カテゴリー	内容	数 (割合 / 33)
手作りおもちゃ	ポットン落とし・さかなつり・音のなるおもちゃ・牛乳パックコマ	19 (56%)
体を動かす遊び	体操・まねっこあそび・エクササイズ・風船トランポリン	12 (36%)
感触あそび	バスボムづくり・片栗粉スライム・クッキーづくり・小麦粘土	4 (12%)
音楽遊び	ふれあい遊び・リズムあそび・	4 (12%)
その他	クッキング・手洗い・リポーターごっこ・自宅ピクニック	5 (15%)

2019年度のぶんぶんひろばに参加された保護者のアンケートによると、希望する遊びの内容は (複数回答) 「体を動かす遊び」77.9%、「感触遊び」76.8%、「音楽遊び」63.5%、「絵本の読み聞かせ」32.6%などが人気であった。自由記述欄には「水遊び」「プール」「絵の具」「粘土」「楽器」「ボール」といった語が多く出現しており、家では実施が難しい活動や、ある程度的人数で行なう活動が、子育て支援ひろばとしてのニーズがある状況が浮き彫りとなっていた (橘2019)。学生は子育て家庭のニーズに寄り添いながら遊びの情報を選ぶことができていたことが確認できる。

(2) 保護者への子育て支援の技術の獲得

保護者に対する子育て支援には様々な技術が求められる。その一つに、保育の知識や技術に関する情報をわかりやすく提供できる力が挙げられている。リーフレット作成にあたり、学生は保護者の目線を意識して、いかにわかりやすい言葉で表現するのか、興味をもって見てもらえるようなビジュアルで構成するのかを考え、保護者がチャレンジしてみたいと思えるようなリーフレットを構成する様子が伺える記述を抜粋した(表9)。リーフレット作成の経験を通して、保護者へ情報提供する力をつけることができたことが伺える。

[表9] リーフレット作成で学んだ子育て支援の技術の獲得に関する記載内容

- ・リーフレット作成に当たったときも、「相手の気持ちになる」ことを意識して見る側が見やすくてわかりやすいように実際の写真やイラストを使用したりレイアウトも考えました。
- ・三つの遊びを提案し、一つ一つをシンプルにわかりやすく説明しました。またワンポイントアドバイスとして、遊ぶことで良い効果がうまれることを説明しました。
- ・どうやったら短いフレーズで相手に伝えたいことを伝えられるかを考えるのが難しく、実際に自分自身がまず体験をしてからリーフレット作りをした。注意点などポイントを抑えながら誰が見てもわかりやすいように作ることができた。リーフレットを見た人が少しでもやってみたいと思って頂けると嬉しい。お家で過ごす子ども達が笑顔になってほしいと思う。
- ・夜、寝かせつけに困っている家庭に、就寝前にお薦めの絵本を紹介しようと考えた。乳児と幼児に分けて子ども達が眠りにつきそうな絵本を選んだ。たくさん絵本がある中で、お父さんお母さんが読み聞かせしやすく、子ども達も読んでほしいと思えるような絵本を選んだ。自分も面白いと思えるもので、子ども達やお父さんお母さんの目線で考えて選んだ。
- ・工作に苦手意識のある保護者にも「身近にあるもので簡単につくれることができる」という点を強調した。新聞を破いて棒に付け、ヒラヒラさせて遊ぶだけなので負担感がなく、さらに作ってから親子で身体を一緒に動かして運動不足を解消してもらえたら嬉しい。

4. 3 社会貢献への意識の変容

コロナ禍という今まで経験したことのない特殊な環境において、学生自身も自分たちの生活で不安がいっぱいだったが、今回の課題学習を通して「社会に目を向けるきっかけになった」「子育て支援の観点から、自分達にもできることを考えるのはとても重要なこと」「少しでも社会の力になっていることを実感できたようでとてもうれしい気持ちで作業に取り組んだ」「どこかで誰かの役に立つかもしれないと思うと、とても嬉しくやりがいのようなものを感じることができた」「私たちのアイデア一つ一つが親子で楽しく自粛期間を過ごす時間を作り、コロナウィルスの感染を避け、明るい未来につながることを祈っています」など、意識の変容が見られた(表10)。

社会の状況が子育て家庭にダイレクトに影響を及ぼしていく構造に気づき、そこに自分たちもかかわることができ、地域・社会の役に立てることを実感できた自己肯定感が高まる経験だったといえる。

多くの学生が自発的に振り返りに記述したという結果を得ることができたのは、学生自身も同じ環境に置かれており、その段階で自身も困り感やもどかしさを抱えているという背景が大きく影響しているのではと推測する。また、もう一つの要因は「対象者」を明確に意識したアウトプット型学習であったことも理由に上がると推測する。

[表 10] 社会貢献への意識の変容が見られる記載内容

- ・今回の課題で小さな子どもを持つ家庭の状況や、工夫しながら過ごされている様子を知ることができた。今はこの先がどうなるのかわからない不安な日々が続くため、自分自身のことで頭がいっぱいになりがちだけれど、社会に目を向けるきっかけになった。
- ・今回の課題を通して子育て支援の観点から、このような社会状況の中で自分達にもできることを考えるのはとても重要なことだと感じました。少しでも社会の力になっていることを実感できたようでとてもうれしい気持ちで作業に取り組みました。
- ・子育て家庭のニーズを考えている時に、今置かれている状況が改めて深刻だと感じ、困っている家庭に少しでも協力ができれば良いと思いました。自分にできることを考えて行動していきたいです。
- ・自分自身はこの自粛期間、何を感じてどうしたいと思っているのか常に考えた。実習で子どもと私たち大人が考えていることは全く別のものではないと学んだ。自分の感じたこと、近所の子どもたちの様子、社会の状況を踏まえた上で子育て支援を考えなければならないと思った。大変ではあったが、保育士になる者として貴重な体験ができたことを嬉しく思う。
- ・私たちのアイデア一つ一つが親子で楽しく自粛期間を過ごす時間を作り、コロナウィルスの感染を避け、明るい未来につながることを祈っています。
- ・この課題を通して、今後保育を学んでいくにあたり、今回のような社会問題に対して、自分の立場からの考えだけでなく、様々な角度から考えていく必要があると感じた。
- ・なかなかお家から出られない子ども達に少しでも貢献することができて良かったです。これからも地域の子ども達に楽しんでもらえる企画の機会があればやりたいです。
- ・たくさんの子育て家庭が困っている中、どこかで誰かの役に立つかもしれないと思うと、とても嬉しくやりがいのようなものを感じることができました。これからもぶんぶんひろばのような貴重な機会を大事にして子育て家庭に貢献していきたいです。

5. まとめと今後の課題

短期大学2年生前期の学生が、オンラインで「コロナ禍における子育て家庭」という対象者を意識したアウトプット型学習に取り組む中で学び・気づきなどの振り返りを抜粋、分析してきた。学生自身にとっても初めて経験する自宅学習という状況で不安もたくさん抱えていたが、オンラインで「コロナ禍における子育て家庭」を対象者としたアウトプット型学習に取り組んだ。家庭で楽しめる遊びなどをまとめたリーフレットや動画作成を経験し、振り返りで記述されたことをもとに、教育的意義について検証してきた。

自らの話し方や表情を撮影した動画を客観的に振り返ることで、笑顔でわかりやすい説明で話すことができていたのかなど保育技術の獲得への意識向上を図ることができた。また、コロナ禍の子育て家庭に思いを馳せ、寄り添いながら、その困りごとを解消できるためのあそびなどの提案をする経験を通して、保護者への子育て支援の理解と技術の向上を図ることができた。さらに、学習課題に取り組むことで、社会で起きていることに目を向けるきっかけとなり、自分たちの作成したものが実際に誰かの役に立っているかもしれない、と考えたときに自己有用感があがり、社会貢献への意識の変容をとらえることができた。

今後は、地域の子育て支援などの関連資源と連携しながら、学生が取り組んだ成果物の効果的な発信の方法を検討していきたい。また動画の配信についても条件を整え、配信方法を確立させていきたい。子育て家庭の生の声をリアルにキャッチすることも実現させることができれば、学生はよりやりがいを感じ、教育的効果が高まるであろう。

動画は、動きと言葉と表情を伴って対象者へ情報のみならず、時には感情も届けることができるメリットを持つツールである。複雑な内容でも短時間に届けることや、幼児や多忙な保護者にも興味関心や明るい気持ちや元気を促すことが可能となる。このような有事の場面だけではなく、平常の場面においても使うことができるプログラムでもあるため、大い

に有効活用していきたいと思う。

謝辞

本稿の実践の中で、紙媒体物であるリーフレットの作成と動画の作成の2つの学習課題を進めるにあたり、学習プロセスをぶんぶんひろばワーキンググループの教員（大橋英子、藤井美津子、細田あかね、伊藤孝子、田岡紀美子）で検討し、多大な協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 八田清果・小林美保子・清水慶子・今若幸子・大下二三子（2014）「地域の子育て支援に貢献する保育者養成の取り組みについて—子育て支援活動「ぶんぶんひろば」の取り組みからその意義と効果を検討する—」滋賀文教短期大学紀要 18号、pp.25-31
- 伊藤孝子（2018）「保育士養成糧を有する大学における子育て支援活動—「ぶんぶんひろば」の教育的意義について—」滋賀文教短期大学紀要 21号、pp.51-63
- 橘那由美（2019）「子育て支援活動「ぶんぶんひろば」の検証—学生の自己評価および参加保護者アンケートの分析を通して—」滋賀文教短期大学紀要 22号、pp.67-81
- 溝上慎一（2007）「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」名古屋高等教育第7号、pp.269-287
- 柏女霊峰／全国保育士会編（2009）「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会
- 厚生労働省（2018）保育所保育指針解説、フレーベル館
- 文部科学省（2018）幼稚園教育要領、フレーベル館
- 国立成育医療研究センター（2020）「コロナ×こどもアンケート第1回調査 報告書」
https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/report_01.pdf 検索日 2020. 1. 8
- 「コロナ×こどもアンケート第2回調査 報告書」https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/CxC2_finrepo_20200817_3MH.pdf 検索日 2020. 1. 8

<付録：オンデマンドで配布した学習課題>

STEP 1：コロナウィルスの影響で自宅にこもらざるを得ない環境の乳幼児の子育て家庭の状況を考える。

①～⑤の中から選ぶ。

STEP 2：その子育て家庭（親子）に、どのような情報を伝えたら楽しく子育てができるようになるのかを考え、リーフレット及び動画を作成。例を参考に具体的な遊びなどを紹介する。

STEP1：親子のお困り状況⇒

STEP2：リーフレットで紹介（作成）する遊びや情報の例

①親子共々運動不足
ぎみ

- ・童謡に合わせた親子体操
- ・赤ちゃん体操
- ・タオルなど身近なものを使った体操

②子どもが遊んでほ
しくてぐずる

- ・身近なものを使った簡単工作
- ・手作りおもちゃ
- ・コミュニケーションを楽しめる絵本
- ・ごっこあそびのヒント

③公園に行っても
面白くない

- ・道端の自然（草花など）を使った遊び方
- ・砂遊びで役立つ手作りおもちゃ
- ・ボール遊びなどの外遊び

④生活リズムが崩
れてメリハリがな
い

- ・歯磨きや手洗いの歌、楽しく促すコツ
- ・お片付けがさっとできる声掛けのコツ
- ・就寝前におすすめの絵本
- ・ほっとできるようなふれあいあそび

⑤その他、自分で考
える

- ・何をすればよいか自分で考えましょう

リーフレットを実践した親子はニコニコ笑顔に♪を目指して作成しましょう。

●リーフレット作成時の注意点

- 印刷をして親子に配布することを想像する。
- 誤字脱字・読みやすい文字に気を付ける。
- 手書き、パソコンどちらでも可とする。
- A4 サイズに書く。
- ①タイトル：おうちでぶんぶんひろば（全員共通。必須） ①～④は記入必須
- ②内容のタイトルをつける
 - 例) 作ってあそべる手づくりおもちゃ～1歳児編～
- ③保護者への共感や、子どもの発達をおさえたようなポジティブなメッセージを書く
 - 例) 1歳児は〇〇が大好きです。おうちでも作って一緒に遊んでみてください。
- ④具体的な子育てや遊びのヒントになる情報を、読んだ人に伝わるように書く。
 - 例) 説明文章・イラスト・図解・写真などを入れる
- 空白スペースに注意
 - ⑤大学のロゴマークなどを入れるためのスペースをとる
 - ・手書きの場合は周囲5ミリを空欄にする：印刷機で読みとれない
- ⑥名前を鉛筆で書く。（印刷配布の時に消せるように）
- きれいに印刷ができるように気を付ける。
 - ・HB以上の鉛筆、ペンなどで書く。
 - ・マジック・クレヨンなどを駆使することでタッチに味が出る。マジックは裏うつりに要注意。
 - ・蛍光ペンは印刷できないので使用不可。
- 著作権に気を付ける
 - ・キャラクターの使用不可
 - ・上記③で引用文献がある場合は、著者「本のタイトル」出版社 を明記する
- 保護者が手に取って「読みたいなあ」「やってみたいな」と思えるレイアウトを工夫する。
紙の折り方やアイデア次第で紙面の使い方を工夫できる。

例) 3つ折りで作成：A4用紙を横長使用。

《表面》			《内面》
〈中表紙〉 ③メッセージ 1歳児は〇〇 が大好きです。 おうちのおも ちゃに飽きた 時、作ってみ せんか。・・・ など	〈裏表紙〉 イラスト ⑤大学名・ロ ゴなど入れ るため空欄 ⑥名前	〈表紙〉 ①おちでぶ んぶんひろ ば ②作って遊 べる手作り おもちゃ ～1歳児編～	④具体的な子育てや遊びのヒント になる情報を、読んだ人に伝わる ように書く。 例) 説明文章・イラスト・ 図解・写真などを入れる

* 数字は注意点の番号（番号の記載不要）

●動画作成時の注意点

- 親子が期待して見ておられることを想像し、視線を合わせたつもりで話す
- 明るい表情・丁寧でポジティブな言葉遣い・服装・映像に入る背景などに気を付ける
- 逆光になってないか、音声が入っているかなど、チェックをする
- 制限時間は2～3分を目安とする
 - ①はじめに簡単な自己紹介をする
 - 例)「こんにちは。滋賀文教短期大学2年生の〇〇です。〇〇を目指しています」など
 - ②導入としてメッセージをつける。
 - 例)「今日は、授業で習った赤ちゃんとのふれあい遊びを紹介します。ぜひ、おうちでもお子さんとアイコンタクトをとりながら楽しい時間を過ごしてください。」
 - 「今日は、〇〇な時に子どもの気分も変わって△△になる〇〇を紹介します」など
 - ③参考にした文献があれば紹介する。
 - 例) (本を持ちながら)「今日の工作は〇〇さんが書かれた「△△△」の本を参考にしてご紹介をしました。」
 - ④締めくくりメッセージをつけて終わる。
 - 例)「本日は見ていただきありがとうございました。」など
- 提出日までに各自で保存・保管しておく

藤本明美 子ども学科講師

